

(第 53 回 : 2023 年 8 月)

## 安全な海外旅行のために (その 2)

前回に引き続き、海外旅行者の安全対策について話を進めます。今回は、海外旅行における安全上のリスク、犯罪やトラブルの具体例とともにその対策について説明します。

### 海外旅行における安全上のリスク

海外旅行は、①仕事などの多忙な日常から離れてリラックスし、②友人やパートナーとの一緒の時間を共有し、③風光明媚な観光地や世界遺産などの歴史的な遺跡を巡り、④現地の音楽や絵画などの文化に触れ、⑤レストランでは美味しい食事に舌鼓を打ち、⑥旅先で出会った人々と交流するなど、楽しみが満載ですが、旅先で出会えるのは、美しい風景や優しい人々だけとは限りません。これらの楽しみが得られるのは、幸運にも何のトラブルにも遭遇しなかった場合という前提条件が付きます。実際、海外旅行では多くの方が大なり小なり何らかのトラブルを経験しているのではないのでしょうか。

様々なリスクがつきものの海外旅行ですが、とりわけ安全に関わるリスクは命の危険にも繋がりがかねません。それらのリスクを列挙すれば、以下のようになります。

1. 犯罪、事件・事故、テロ等の危険は、日本に比べても発生確率が高く、旅行中は安全のリスクと常に背中合わせと考えるべき。
2. 自然災害 (ハリケーン、モンスーン、洪水、地滑り、竜巻、地震・津波、山火事等)の危険がある。
3. 新型コロナウイルスは世界的なパンデミックになったが、それ以外にも日本にはない感染症 (デング熱、マラリア、コレラ、ジカ熱、エボラ出血熱等々) や風土病があり、また慣れない土地や時差による体調不良・病気、さらにはケガ、交通事故等の危険もある。
4. 薬物などの誘惑から、日本人が犯罪被疑者になることもあり得る。

これらのことを踏まえて、せつかくの海外旅行が台無しにならないようにするためにも、安全対策には細心の注意が必要です。

## 海外旅行中の安全対策の心構え

以下は、海外旅行における安全対策についての基本的なポイントです。

### 1. 自分の身は自分で守る

海外においては、いつ何時危険な場面に遭遇しないとも限らないという意識を常に持ち、自分の身の安全を守ることは基本的に自己責任と考えて行動することが肝要。また、知人でない限りは安易に他人を信用することは危険であると意識すべき。治安の良い日本にいるのと同じ意識は捨て去る。

### 2. 予防が最良の危機管理

旅行中は、常に予防措置をとっておくことが犯罪に遭わないための最善策。ホテルの部屋の施錠、ホテル内の非常口や警備状況の確認、屋外においては常に周囲に気を配り、車両や公共交通機関での移動の際にも周囲に不審者がいないか常に確認を怠らないことが肝要。不特定多数の人が出入りするホテルのロビーでも常に周囲の状況に注意を払うことが必要。

### 3. 安全のための三原則を厳守

#### ①目立たない

日本人は、海外ではかなり目立つ存在。その上、旅行者然として周りをきょろきょろしながら歩くことは犯罪者の格好の標的になり得るので禁物。また、外見上目立つ服装をしていることは容易に「カモ」と見做されるので要注意。

#### ②行動を予知されない

自分自身の行動を他人に予知されることは、犯罪に遭うリスクを高める。ホテルのスタッフや街で知り合った人など、見ず知らずの他人には自分の日程や行動予定を知らせないことが肝要。

#### ③用心を怠らない

上記2. で述べたとおり。治安の良い日本とは異なる状況の海外では、意識を常に海外モードにして周囲に気配り、目配りをして用心を怠らないことが肝要。

### 4. 現地の文化・習慣を理解して行動

### 5. 衛生管理と健康に留意

## 海外において日本人が遭いやすい犯罪被害例

日本人旅行者の多くが、海外で犯罪被害に遭うのは運が悪いからだと考えがちですが、実際はそうではありません。多くのトラブルは、安全対策の心構えをしておくことにより防ぐことが可能です。先ず、前述のとおり日本人は海外ではかなり目立つということを認識しておくことが肝要です。

コロナの直前まで、中国人旅行者が世界の観光地を席卷していたような印象がありま

すが、日本人も海外ではかなり目立つ存在です。海外においては、一般的な認識として日本人旅行者は金持ちだと思われています。これは、バブル期の1980年代から90年代前半にかけて日本人海外旅行者が多額の現金を持ち歩き、欧米でブランド品を買いあさっていたイメージが今も残っていることも理由の一つと思われま

す。現金を持ち歩いて盗難被害に遭った場合、その回収はほぼ不可能です。にもかかわらず、クレジットカードが普及しキャッシュレス決済が当たり前となった昨今ですら、日本人は外国人に比べると海外で多額の現金を持ち歩く傾向が高い印象を受けますが、犯罪者もそのことをよく知っています。したがって、日本人旅行者はその存在自体が犯罪者のターゲットになりやすいと言えるでしょう。また、従来型のパッケージ旅行に飽き足らず、フライトやホテルから現地の日程まですべて自分で計画する個人旅行が増えたことも、安全リスクを高める結果になっていると思われま

す。日本にいるのと同じ安全意識でいることは、それだけ犯罪に遭う確率を高めてしまうこととなりますので、群衆に紛れてしまえば目立たないだろうという考えは捨てて、安全対策に十分配慮する必要があります。

さらに、安全対策の準備とともに、自分自身が犯罪加害者や被疑者にならないような心構えを持つことは言わずもがなです。

では、海外ではどのような犯罪が起きているのか、過去の日本人旅行者の被害例なども踏まえつつ、その代表的なケースとその対策を以下に挙げておきます。

## 1. 殺人・殺人未遂（金品目的）

海外におけるこれら犯罪のほとんどのケースで、犯人が銃等の武器で武装している。日本でのこの種事件の多くでは怨恨が原因なのに対し、海外では金品目的の強盗や身代金目的であることがほとんど。

**対策**：被害は、夜間あるいは人通りの少ない場所で起きていることが多いので、外出に当たってはこれらの時間帯と場所を避けて行動する。犯人は凶器を所持していることがほとんどであるので、被害に遭った場合には生命を第一に考えて、絶対に抵抗しない。

## 2. 誘拐（身代金目的）、監禁（金品強奪）

海外では目立つ存在の日本人が誘拐のターゲットになるケースもある。その動機において、現地在住或いは出張中の企業関係者が対象であることが多いが、金持ち日本人を目当てに旅行者が狙われることもある。見ず知らずの現地人と親しくなった後に、頃合いを見計らって突然監禁され、日本人のクレジットカードを使用して高級貴金属等の物品を購入させ、そのまま強奪する手口も横行。

**対策**：現地で人と知り合った場合でも、相手の身元がはっきりとわからない場合には、一緒に行動しない。誘われても、相手の家についていくなどは論外。自分の所持金やクレジットカード情報などは相手に悟られないようにする。

### 3. 強盗（睡眠薬強盗、首絞め強盗等）

①親しくなった現地人に気を許したすきに犯人が飲食物に睡眠薬を混入する、②観光地などを人通りの少ない午後に散策中いきなり首を絞められ金品を強奪される等のケースは古典的な犯行の手口で、多くの被害例がある。一般的に日本人は金持ちと見做されており、標的になりやすい。特に、バッグに全財産をまとめて持ち歩くことがよく見受けられるが、バッグを強奪されて全財産やパスポートを失った場合のダメージは非常に大きい。

**対策**：①睡眠薬強盗は、飲食物に睡眠薬を混入する手口なので、現地人と知り合った場合、相手からの食事などの誘い、飲食物の提供などは断る（相手の親切心には必ず下心があると認識すべき）。②首絞め強盗は、人気のない場所であれば昼夜を問わず襲われる可能性があるため、人通りの少ない場所への外出は避ける。また、旅行中1人または少人数で行動する場合は周囲に怪しい人物がいないか常に注意する。

### 4. 窃盗（スリ、置き引き、空き巣・侵入盗（ホテルの自室）、バイク・自転車によるひったくり、車上荒らし等）

①人ごみにおけるスリ、②空港到着後の荷物引き取り時や出発の際のセキュリティチェック時、ホテルのチェックイン・チェックアウト時、レストランで食事中に椅子に掛けたバッグ等荷物を置き引きされるケース、③セキュリティの不十分なホテルの部屋に侵入しての空き巣、④路上を歩行中にバイクや自転車に乗った犯人によるすれ違いざまのバッグなどのひったくり、⑤レンタカーした車中の荷物の盗難等、窃盗被害例が多数報告されている。

**対策**：①ファスナー等の付いていないバッグ、ズボンの尻ポケットなどの盗まれやすいところには貴重品を入れない。人ごみで不自然に体に触れられる場合には所持品をすぐに確認する。②チェックイン時の荷物やバッグは手に持つか両足で挟むなど体に触れるような状態にしておく。③外出時、貴重品はホテルのセーフティボックスに入れて暗証番号をセットして施錠する。在室時の侵入に備え、必ずドアチェーンを掛けておき、ドアをロックされてもチェーンを付けたまま相手を確認する。④歩道を歩くときは、車道側を避けて建物側を歩く。バッグなどの荷物は車道側ではなく建物側の手に持つ。⑤路上駐車は避け、駐車中の車内の座席には荷物を置かずトランクに入れる。

### 5. 銃乱射（学校、ショッピングモール、クラブ、ホテル等）

米国で多く見られる事件。社会に不満を有する犯人による銃乱射事件多発。学校や人の多く集まるショッピングモール、クラブなどでの犯行例多数。時に大規模なホテルのロビーなどでも発生。

**対策**：銃声が近くに聞こえたら、体を地面に伏せる。銃声が遠い場合には銃声と反対方向に逃げる。ホテルやショッピングモール、クラブなどの施設では、非

常口の場所を予め確認しておくことを心掛ける。

## **6. 詐欺（クレジットカード、ATM 詐欺、偽警官、悪質旅行者による旅行強要、貴金属・高級絨毯詐欺）**

①店舗でクレジットカードを使用した際にカード情報を盗まれ多重請求される犯罪が横行。②ATM でカメラやカード読み取り機を取り付けて情報を盗み取る ATM 詐欺が横行。③また、警察官を装って持ち物検査をすると称して財布の中身を抜き取るなどの手口（偽警官）や、④悪質旅行者がタクシー運転手とグルになって旅行者を業者の事務所に連れて行き、その場で法外な金額の旅行商品購入を強要する手口が横行。⑤偽の貴金属や絨毯を高級品として高額で販売する手口も横行。

**対策**：①カードの暗証番号を入力する場合には、第三者に盗み見られることがないように手で隠す。②ATM の暗証番号入力も隠しカメラに映されないよう、手で隠して入力する。③どの国においても警察官が持ち物検査をすることはないので、日本大使館に連絡する旨を毅然と伝える。相手が警察官を名乗る場合には警察手帳（警察官の身分証明）の提示を求め、身分事項のページをスマホで写真に撮る。④タクシーの乗車は正規のタクシー乗り場で正規の営業タクシーに乗車し、出発前に目的地までの金額を確認する。現地で旅行商品を購入する場合には、信用のある代理店を選ぶ。⑤貴金属や絨毯などの高級品の購入は、ガイドブックなどにも掲載されている信用のある店を選ぶ。

## **7. 性犯罪（強姦、強姦未遂、未成年性犯罪等）**

欧米人や日本人女性を狙った性犯罪も多く発生。原因としては、現地の文化（例えばイスラム圏やヒンディー圏のような女性が肌を露出することが一般的ではない地域の文化）を尊重せず挑発的とみられる服装（短パンやミニスカートにタンクトップ、ノースリーブ等）をしていたために、相手を刺激してレイプ等の被害に遭うケースもあれば、相手との不用意かつ安易なスキンシップなどが相手に誤解を与え、刺激することもある。

**対策**：過度な肌の露出を避ける。外国人男性からのアプローチに浮かれず、はっきりと「ノー」と断り付け入るスキを与えない。安易に男性と二人きりの場面を作らない。安易に食事に行かない。見ず知らずの相手の車に同乗しない。

## **8. 日本人が犯罪被疑者になるケース**

①薬物（マリファナ、ハッシッシ、覚せい剤、化学合成薬物等）の違法販売、違法取得と使用、運び屋などをやらされるケースなどでの逮捕事案。国によっては（特にアジア諸国）、薬物犯罪は重大犯罪として長期刑や場合によっては死刑になることも。一部欧米諸国（オランダ、カナダ、米国の一部の州等）で合法化されているマリファナを非合法とされている国（日本を含む）に持ち込んだ場合も犯罪となる。②薬物以外でも、海外で密輸品を他人から預かって第三国（日本を含む）へ持ち込むこと、ワシントン条約で禁止されている希少動物やその加工品（象牙が典型例）

を密輸するなどの行為は品物の没収に留まらず、犯罪として拘束されることも。

③法定の制限金額以上の多額の現金、禁止されている物品（国によって異なるが、酒類、食肉（加工品を含む）、高額な物品等）の持ち込み、持ち出しは罪に問われる、または没収の処分を受ける可能性が高い。

**対策**：①興味本位で安易に麻薬に手を出すことは絶対に禁物。知らず知らずのうちに麻薬の運び屋にされないよう、たとえ知り合いであっても他人の荷物を預かることはしない。

②持ち込み、持ち出し禁止品目や出入国時の外貨申告制度などに関わる規制は事前に正確な情報を入手し、規定を守ることが肝要。見つかったら没収される程度というような安易な考えは禁物。

## 海外では犯罪以外にも数々のトラブルが

他にも、海外では数々のトラブルが待ち受けています。以下は、実際に日本人が遭遇したトラブルのほんの一例です。

### 1. パスポートの紛失・盗難

海外旅行においてパスポートは本人の身分を示す唯一の公文書。上記の犯罪被害例でも説明したとおり、窃盗や置き引きにより金品とともにパスポートの盗難に遭うケースが頻発している。また、飛行機内、タクシーや観光バスの車内での紛失、ショッピングで免税手続きなどの際にパスポートを提示して紛失するケースも多数ある。パスポートの盗難・紛失により飛行機に搭乗できず、旅行を日程通りに続けることが困難になる場合もあり、楽しいはずの旅行が台無しになりかねない。

**対策**：海外では、パスポートがなければ身分を証明することはできない。大げさではなく命の次に重要なものと意識し、常に肌身離さず身につけておく。

### 2. 所持金、クレジットカードの紛失・盗難

前段でも述べたように、日本人は多額の現金を持ち歩く傾向にあるが、現金やクレジットカードの盗難、紛失が多発している。ホテル等の宿泊施設を予約していない場合や、予約していても事前に支払いが行われていない場合、支払いの手段を失い宿泊ができないことになり、その後の旅行も続けられなくなる。

**対策**：多額の現金をまとめて持ち歩かない。所持金、クレジットカードなどはバッグにひとまとめにして持ち歩かず、分散して管理する。例えば、現金とクレジットカードは別にしておく、或いは一部の現金や複数あるカードの1枚はホテルの金庫に預ける等。

### 3. 現地の法律・風俗・習慣にまつわるトラブル

①保安上重要とされているエリア（軍事施設、空港、港湾施設等）での写真撮影が禁止されている国が多くあり、知らずに撮影をして拘束された事例がある。

**対策**：予め撮影禁止となっている場所をチェックしておく、またはこれらの施設での撮影は行わないなどの注意が必要。

②肌の露出の多い服装（ショートパンツ、ノースリーブ等）で宗教施設（寺院等）を訪問しようとして入場拒否などのトラブルになった事例もある。

**対策**：日本では普通のこと、宗教の異なる外国では禁忌とされていることも多いので、訪問前に現地の習慣や宗教を理解しておくことが必要（郷に入れば郷に従う）。

③家族連れの旅行の際、空港やショッピングモールなどの公共の場で子供が言うことを聞かないからといって叱りつけ頭を叩くなどして、周囲からDVや児童虐待を疑われ、当局に通報され連行されたケースもある。

**対策**：欧米ではDVには非常に厳しい法律があるので、子供を叱りつける、或いは夫婦喧嘩などでも暴力と見られかねない行為は禁物。

#### 4. 交通事故、自然災害、海・川・山などでのレジャー中の事故

①歩行中あるいはバスや列車などに乗車中、レンタカーを運転中の交通事故が過去に何件も報告されている。②ハリケーン、洪水、竜巻、山火事、地震、津波等の自然災害に巻き込まれた例も散見されている。③海・川・山などでレジャー中に事故に遭った例もある。

**対策**：①海外では、日本と異なり必ずしも歩行者優先の交通事情ではなく、歩道の整備されていないところも多いので、歩行するには細心の注意が必要。車の運転では、日本とは異なる左ハンドル、右側通行の国も多く、現地の交通法規を十分熟知することが必要。また、慣れない夜間の運転はなるべく避ける。②自然災害に備え、事前に訪問地の天候などの気象情報を入手。災害が迫っているか、すでに発生している場合には日程のキャンセルも検討する。③自然を相手にしたレジャーでは、登山、マリンスポーツ、川下り（ラフティング）などいずれも十分な経験が必要。また、無理な計画は立てない。現地で公的な資格を有する信頼のおけるガイドを選ぶことも必要。

万が一に備え、出発前に海外旅行傷害保険や山岳保険に加入しておく。

#### 5. 感染症、風土病、病気

海外では、日本には見られない感染症等（デング熱、マラリア、ジカウィルス、エボラ出血熱等）がある他、気候の違いや時差、食習慣の違い、言葉が通じないストレスといった理由によって体調を崩すこともある。上記4.の交通事故なども、体調がすぐれず注意力が散漫な状態で遭遇することもある。

**対策**：無理な行動計画は立てず、休養の時間を設ける。海外における医療費は、国によっては非常に高額な場合があるので、出発前に必ず海外旅行傷害保険に加入しておく。

海外旅行では、誰しものが日常を離れて楽しい思い出をたくさん作って帰国したいと願っていることでしょう。そのためには、旅行を計画する段階から予め安全対策を立てておくことがリスクを最小限にする近道です。

ただ、事前の準備を怠りなく進めた場合でも、万が一ということも起こり得ます。突然のトラブルに備えるという観点から、旅行の計画に当たっては、訪問先を管轄する在外公館（大使館、総領事館、領事事務所）の連絡先を把握しておくことが重要です。同時に、「[外務省海外安全ホームページ](#)」で公開されている“**旅レジ**”への登録を是非ともお勧めします。登録は任意ですが、“**旅レジ**”へ登録することによって、現地の大使館や総領事館から日本語で最新の安全情報がメールで届きます。また、緊急事態やテロなどが発生した場合、大使館や総領事館から緊急連絡のメールが届き、安否の確認や必要な支援を受けることができますので、ぜひご検討ください。旅行の日程の詳細が決まっていない段階でも登録ができます。“旅レジ”のリンクは以下の通りです。

[たびレジ - 外務省 海外安全情報配信サービス \(mofa.go.jp\)](#)

また、海外でスマートフォンを利用する際に、海外安全アプリをインストールしておく、GPS機能を利用して現在地や周辺地域の安全情報を表示することができますので、こちらもぜひ活用してみてください。アプリのダウンロードの詳細に関するリンクは以下の通りです。

[外務省 海外安全ホームページ | 海外安全アプリの配信について \(mofa.go.jp\)](#)

以上、少々長い説明となりましたが、海外旅行の際の安全対策についてポイントを述べてきました。事前の心構えと情報の収集が重要であることをお分かりいただけたかと思います。

それでは、読者諸氏の海外旅行が安全に遂行され、楽しい旅の思い出とともに無事に帰国されることを願って今回のコラムを締めたいと思います。

おわり

（公財）栃木県国際交流協会 参与 石塚勇人（略歴）

1977年外務省入省。外務本省では主に経済協力局、国際協力局で途上国の開発協力を担当。海外勤務歴は、在イスラエル大使館に始まり、在アンカレッジ総領事館、在モンリオール総領事館、在連合王国（英国）大使館、在南アフリカ大使館、在ギリシャ大使館、在ドイツ大使館、在インド大使館、在ニューヨーク総領事館の9公館で計29年間。ギリシャ、ドイツ、インドの各大使館で領事班長を歴任。在ニューヨーク総領事館領事部長を最後に2019年3月退官。同年5月より現職。